

テックワンP3プラスの使用で 木造躯体費の大幅なコストダウンが可能に！

八海醸造の400㎡の木造社員食堂が竣工

(株)タツミ

今、プレカット業界の新たな市場として木造非住宅市場が活況を見せている。中でも一般に流通する集成材を使った建物は昨年あたりからその数を増やしてきた。一方、接合金物メーカーもそうした市場のニーズに応えるべく、中大規模木造の設計に対応した金物の開発や構造計算手法の普及を積極的に進めている。今回は木造にとって厳しい条件である豪雪地帯に竣工した、約400㎡の大規模木造建築を取材した。



八海醸造(株)「魚沼の里」内に竣工した1階建て約400㎡の社員食堂

木造住宅市場の落ち込みが一段と厳しい状況の昨今、プレカット業界の新たな市場として動きが活発になってきた木造非住宅市場。公民館や体育館などの公共施設だけでなく、民間でも様々な施設が次々と建築されるようになった。中でも昨年あたりから多くなってきているのが、特注サイズの集成材に頼らない一般的な集成材を使った建物である。これは消費者の木造指向だけでなく、コスト的にも鉄骨造などに比べても見合うことや、木造の償却期間が短いなどの理由で投資効率もいいからだ。

また接合金物メーカーもこうしたニーズをとらえて、中大規模木造の設計を容易にする金物の開発や金物を使った構造計算手法の普及などを積極的に進めており、これまで以上に取組みやすい状況になっている。各地のプレカット工場でも対応が進んでおり、既に受注の1割以上が中大規模の木造建築向けプレカットになっているところも多くなっている。

そうしたブームの中で、木造住宅用接合金物のトップメーカーでもあり、プレカット工場も展開する新潟

の(株)タツミ(山口紳一郎社長)では、中規模木造建築で一般集成材を使い高耐力架構を実現できる接合金物テックワンP3プラスで大空間設計の木造建築にチャレンジしている。

構造計画の要「テックワンP3プラス」

今回、同社が手がけたのは、地元新潟県南魚沼市の八海醸造(株)(新潟県南魚沼市、南雲二郎社長)の「魚沼の里」内の敷地にある1階建て約400㎡の社員食堂で、見晴らしのよい西側窓面が全面開放という建物。同地は豪雪地帯で毎年3メートル近く雪が積もるところ。広さ、眺望の確保、過酷な積雪対策という木造にとって非常に厳しい条件の建築であった。

そのため構造計画の要として、中規模木造対応接合金物「テックワンP3プラス」を使用し高耐力の木ブレース架構を10カ所配置、全面開口とする西面には3カ所配置し躯体性能を確保した。また構造材は、流通材の標準的な断面寸法(基本材幅120mm)を基本